



ゼンショーグループは
地の果て 海の果つるところまで
MMDシステムをつくれます。

誰もが自分自身の視野の限界を、
世界の限界だと思い込んでいる。

ショーベンハウアー

佐賀県 浜野浦の棚田

2022年3月期 第2四半期

中間報告書

2021年4月1日～2021年9月30日

ZÉNSHO

株式会社 ゼンショーホールディングス

目次

トップメッセージ	…	1
財務ハイライト	…	2
セグメント別ハイライト	…	3
セグメント別の概況	…	4
トピックス	…	5・6



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

2022年3月期の上期(2021年4月1日から2021年9月30日)は、コロナ禍によって人の移動が制限され、経済活動および個人消費の低迷が続き、外食産業においては引き続き厳しい経営環境となりました。この厳しい環境のなか、「すき家」をはじめとする外食・小売の各業態はさまざまな営業施策を講じ、増収増益となりました。つきましては、株主様の日頃のご支援に報いるため、中間配当金を1株につき1円増配して11円とすることを決定いたしました。

下期も輸入牛肉の価格高騰の影響など引き続き厳しい環境にありますが、アフターコロナを見据え、グループ一丸となって業績向上に向けた取り組みを続けてまいります。また、DX(デジタルトランスフォーメーション)をはじめとした技術革新を通じ、より魅力のある商品とサービスをご提供しながら成長を続けてまいります。

一日も早く安心して暮らせる社会を取り戻せるよう、ゼンショーグループは今後も「食のインフラ」として、世界の皆様に安全でおいしい食を手軽な価格で提供してまいります。

株主の皆様におかれましては、世界から飢餓と貧困を撲滅する理念をともに実現するパートナーとして、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社ゼンショーホールディングス

代表取締役会長 兼 社長

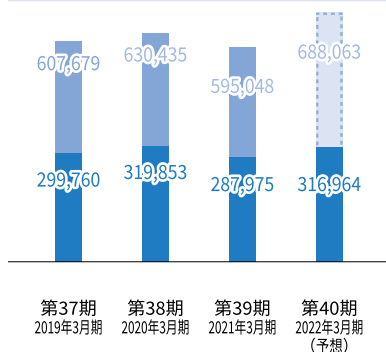
(ご参考)

2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

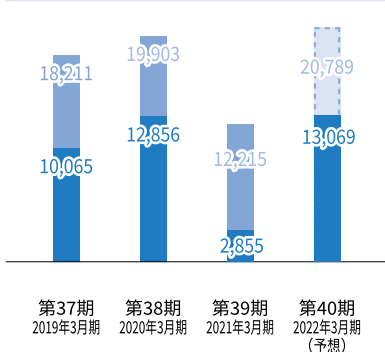
売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
6,880億63百万円 前年同期比 15.6%増	225億16百万円 前年同期比 86.3%増	207億89百万円 前年同期比 70.2%増	91億39百万円 前年同期比 304.5%増	60円08銭

売上高	営業利益
3,169億 64百万円 前年同期比10.1%増	86億 37百万円 前年同期比212.5%増
経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
130億 69百万円 前年同期比357.7%増	64億 32百万円

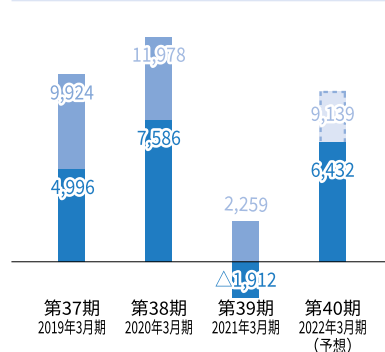
売上高 (単位：百万円)



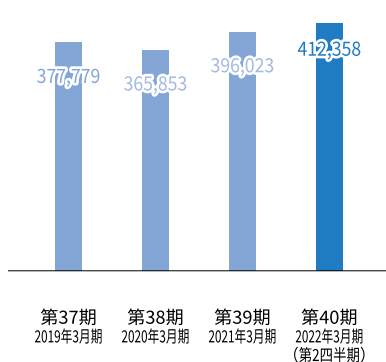
経常利益 (単位：百万円)



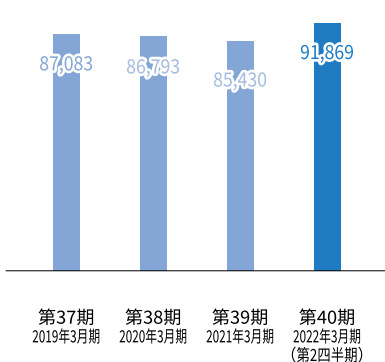
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



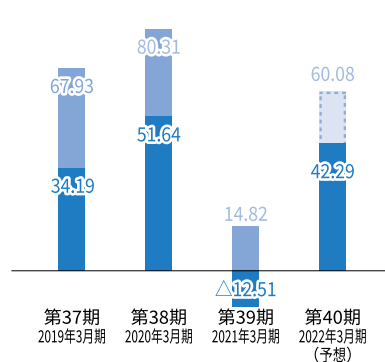
総資産 (単位：百万円)



純資産 (単位：百万円)



1株当たり当期純利益 (単位：円)



※配当につきましては、中間配当は当初予想より1株当たり1円増配の11円、期末配当につきましては1株当たり11円とし、年間では22円を予定しております。

通期 第2四半期

外食事業

牛丼カテゴリー

牛丼カテゴリーの当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,142億67百万円(前年同期比8.5%増)となりました。

株式会社すき家が経営する牛丼チェーンの「すき家」につきましては、「やしそば牛丼」(並盛500円)、「ニンニクの芽牛丼」(同500円)、「Wニンニク牛丼」(同560円)、「ねぎ塩レモン牛丼」(同500円)、「豚丼」(同380円)等の新商品を導入し、商品力の強化に努めてまいりました。

また、「家でもおいしい」をテーマに、牛丼とおかずをスプーンで混ぜて食べる新感覚の牛丼弁当「SUKIMIX」(同580円)を導入し、お客様の新しい生活スタイルへの対応にも積極的に取り組んでまいりました。

株式会社なか卯が経営する丼ぶり・京風うどんの「なか卯」につきましては、新商品・季節限定商品の投入、既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化、テイクアウト商品の充実、効果的な店舗販促を行い、業績の向上に努めてまいりました。

なお、牛丼カテゴリーの当第2四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、43店舗出店、30店舗退店した結果、3,077店舗(FC9店舗含む)となりました。

レストランカテゴリー

レストランカテゴリーの当第2四半期連結累計期間の売上高は、413億37百万円(前年同期比7.7%減)となりました。

株式会社ココスジャパンが経営するファミリーレストランの「ココス」につきましては、メニューのラインアップ強化、ごちそう感あふれるフェアメニューの投入、サービス水準の向上、テイクアウト商品のさらなる充実を図り、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ビッグボーイジャパンが経営するハンバーグ&ステーキレストランの「ビッグボーイ」等につきましては、メイン商品のブラッシュアップを図るとともに、お客様からご支持の高いサラダバー・スープバーをさらに充実させ、テイクアウト商品の強化を行うなど、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ジョリーパスタが経営するパスタ専門店の「ジョリーパスタ」につきましては、「おいしさと楽しさを追求するパスタ専門店」として、メニューのラインアップ拡充、安全でおいしい旬の食材を活かした新商品の投入を行い、一層のおいしさと楽しさを追求してまいりました。

株式会社TAG-1が経営する焼肉レストランの「宝島」、「熟成焼肉いちばん」、「牛庵」、「いちばん」等につきましては、業態コンセプトの

ブラッシュアップを図るとともに、肉の専門レストランとして厳選された牛肉と旬の食材を活かした品質の高い商品の提供、店舗サービス水準の向上に努めてまいりました。

株式会社華屋与兵衛が経営する和食レストランの「華屋与兵衛」につきましては、お客様の満足度向上を図るため、旬の食材を活かした和の魅力あふれる商品の開発、店舗従業員のサービス水準向上、労働生産性の改善等に努めてまいりました。

なお、レストランカテゴリーの当第2四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、16店舗出店、54店舗退店した結果、1,226店舗(FC79店舗含む)となりました。

ファストフードカテゴリー

ファストフードカテゴリーの当第2四半期連結累計期間の売上高は、700億37百万円(前年同期比7.3%増)となりました。

株式会社はま寿司が経営する100円寿司チェーンの「はま寿司」につきましては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、旬の食材を活かしたフェアメニューの投入及び商品品質の向上、店舗サービス・販促の強化、テイクアウト商品の充実等に努めてまいりました。

TCRS Restaurants Sdn.Bhd.が経営するチキンライス専門店の「The Chicken Rice Shop」は、ハラル認証を受け、マレーシアで広く展開しており、老若男女問わずファミリー層に支持されています。

なお、ファストフードカテゴリーの当第2四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、17店舗出店、6店舗退店した結果、968店舗(FC1店舗含む)となりました。

その他カテゴリー

その他カテゴリーの当第2四半期連結累計期間の売上高は、511億84百万円(前年同期比86.2%増)となりました。

当カテゴリーの主な内訳は、米国、カナダ、オーストラリアで寿司のテイクアウト店を展開しているAdvanced Fresh Concepts Corp.、家庭用冷凍食品販売の株式会社トロナジャパン、グループの物流機能を担う株式会社グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する株式会社グローバルテーブルサプライ等であります。

なお、その他カテゴリーの当第2四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、125店舗出店、78店舗退店した結果、4,580店舗(FC4,351店舗含む)となりました。

小売事業

小売事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、401億37百万円(前年同期比11.0%減)、営業利益は9百万円(同99.2%減)となりました。当事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する株式会社ジョイマート及び青果販売等の株式会社ユナイテッドベジーズ等であります。なお、小売事業の当第2四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、2店舗出店、1店舗退店した結果、129店舗となりました。

セグメント別売上高構成比

当社グループの代表的な子会社及び業態のロゴマークを記載しております。

■ 小売事業

401億 37百万円

(グループ売上シェア 12.7%)

■ 主なブランド



■ その他カテゴリー

511億 84百万円

(グループ売上シェア 16.1%)

■ 主なブランド



■ ファストフードカテゴリー

700億 37百万円

(グループ売上シェア 22.1%)

■ 主なブランド



■ 外食事業

2,768億 26百万円

(グループ売上シェア 87.3%)

■ 牛丼カテゴリー

1,142億 67百万円

(グループ売上シェア 36.1%)

■ 主なブランド



■ レストランカテゴリー

413億 37百万円

(グループ売上シェア 13.0%)

■ 主なブランド



株式会社 ジョイマート



自社オリジナルブランド「茶葉物語」



すき家 牛丼の具

すき家 横濱カレー

〈ミールキット〉
おかず三味
麻婆豆腐

株式会社 トロナジャパン



窯焼きピッツァマルゲリータ



ゼンショーグループの小売商品

コロナ禍で人の移動が制限され、ご自宅で食事をする機会が増えた昨今。ゼンショーグループでは変化するライフスタイルに合わせ、外食事業以外にも様々な分野で変革を起こしています。

小売事業を展開する株式会社ジョイマートでは、「楽しい・おいしい・便利」をコンセプトに、コンパクトな売場で、毎日利用しても飽きない大型スーパー並みのバラエティに富んだ品揃えを実現しています。また、多様化するお客様のニーズにお応えできるよう、コンセプトを重視した自社オリジナルブランドの拡充・強化を図っています。

一方、株式会社トロナジャパンは近年高まる中食・内食需要に応える役割を果たしています。冷凍ピザやパスタなどのオリジナル商品を中心に、「すき家 牛丼の具」などグループ会社の多彩な商品を全国のスーパーやネットストアへ展開しています。また、ご家庭で専門店のような本格的な料理が味わえるセットや、作る体験を楽しめる「ミールキット商品」を商品ラインアップに加えました。

これからもゼンショーグループはお客様の食に関するニーズを満たす総合企業として、独自性あふれるサービスの提供や商品づくりを進めてまいります。

すき家の社会貢献活動

プレミアム Sukipass 贈呈

すき家では、コロナ禍で今なお最前線で働く医療従事者の方々に向け、「プレミアム Sukipass」を贈呈しました。

全日本病院協会様などにご協力いただき、全国 570 施設 235,260 名の医療従事者の方々に敬意と感謝の思いを込めて、プレミアム Sukipass をお届けすることができました。



キッチンカー 子ども食堂*支援へ

「子ども食堂」を通じて共働き・一人親家庭などの子育て世帯をサポートする団体からすき家にご相談をいただきました。コロナ禍で子ども食堂の運営ができず、温かい食事を一緒に食べる機会を提供できない状況でも子どもたちに温かい食事をお腹いっぱい食べてもらいたいと。

その想いに賛同したすき家では、キッチンカーを出動させ、温かい牛丼・とん汁などを提供。ほかほかの牛丼弁当を受け取った子どもたちは「キッチンカーが大きくてびっくりした。家に帰って食べるのが楽しみ」と笑顔で話していました。

※ 子ども食堂・・・子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂のこと。食事提供や食育、地域交流の機能も持つ。



ペルー北部にある生産者組合事務所にて

新型コロナウイルス感染症は、ペルー北部の国境周辺の山中に暮らすコーヒー生産者の生活圏にも拡大しています。この状況に接し、ゼンショーは社会開発資金※を医療スタッフ2名の採用など生産者組合の緊急対応に役立てています。この2名が生産者宅で健康診断や「手洗い・マスク着用方法」などの防疫教育を行い、

ZENSHO FAIR TRADE

生産地の健康、そして命を守る

意識向上が進んでいます。さらに生産者組合事務所内に新設された感染症対応専用スペースでは、医療スタッフによる診察や感染者への応急処置、隔離療養ができるようになりました。

また、予防に必要な物資が足りない状況の改善のため、生産者約 200 名に消毒用アルコールやマスクなどを配布。これらの取り組みによって、医療や物資が届きにくい山中で暮らす生産者とその家族の生活をサポートしています。

※ 社会開発資金・・・商品価格の中で、現地の人々の生活改善などに充てるために使用される部分の金額のこと。



株主優待制度

当社では皆様の日頃のご厚情に感謝し、100株以上保有の株主の方に、当社グループ店舗でお使いいただける「株主様お食事ご優待券」をお届けしています。



100株以上300株未満	1,000円分（500円券×2枚）
300株以上500株未満	3,000円分（500円券×6枚）
500株以上1,000株未満	6,000円分（500円券×12枚）
1,000株以上5,000株未満	12,000円分（500円券×24枚）
5,000株以上	30,000円分（500円券×60枚）

ご優待券をご利用いただけるお店



代替品について

300株以上保有の株主様は、代替品交換制度をご利用いただけます。（代替品の一例）



定められた期限内に未使用で最新の株主優待券をご返送いただくと、3,000円1冊分で、ゼンショーグループのオリジナル商品と交換が可能です。

※詳細は株主優待券同封の「株主様お食事ご優待券のご案内」をご覧ください。



ゼンショーグループ公式通販ショップのご紹介

ゼンショーグループの商品はこちらの公式通販サイトからご購入いただけます。



ZENSHO
net store
ゼンショーネットストア



ゼンショーサポーターズクラブ[ZSC] 会員募集中!!

資本と経営は「車の両輪」という当社の理念に共感いただいた株主の皆様と、まさに両輪としての関係を築くために設立されたゼンショーグループの応援団体です。

ゼンショーグループを共に育て、企業価値を高めることを目的としています。

ZSC会員特典

- ①「会員情報紙」の送付
- ② グループ店舗で使える「特別お試し券」(割引券)の送付
- ③ ZSC オリジナル商品の特別販売(通販)

※詳細は「サポーターズクラブ入会案内申込みハガキ」をご覧ください。
(お問合せ)
ZSC事務局 TEL:0120-959-309 9:00~17:00(土日祝日・年末年始除く)

大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
合同会社 日本クリエイト	52,307	34.38
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	9,205	6.05
小川 賢太郎	3,170	2.08
小川 一政	3,160	2.08
小川 洋平	3,160	2.08
ゼンショーグループ社員持株会	2,869	1.89
株式会社 日本カストディ銀行 (信託口)	1,340	0.88
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	1,073	0.71
清水 信次	1,027	0.68
JP MORGAN CHASE BANK 385781	720	0.47

(注)持株比率は自己株式(2,738,949株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 : 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
配当金受領株主確定日 : 3月31日及び9月30日
定時株主総会 : 毎年6月開催
基準日 : 3月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。

株主名簿管理人及び特別 : 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
口座の口座管理機関 : 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 : 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 : 0120-782-031 (フリーダイヤル)
単元株式数 : 100株
公告方法 : 原則として当社ホームページにて行います。電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。